

第306回所沢小児科医会

2014年4月22日

# 食物アレルギーによるアナフィラキシー ショックの治療経験

くさかり小児科 草刈章

## 男児 2005年10月生 25287

- 主訴;じんましんと嘔吐
- 現病歴;本日、お昼に母親用の卵入りのうどんを作って、卵を入らないように取り分けて汁とおろし、かつお節のうどん食べさせたところ、気持ち悪そうにぐずりながら眠ってしまった。2時間ほどしてから起きて下痢をした。おむつ交換している最中に、全身蕁麻疹でて、直ちに病院にきた。きてから嘔吐1回した。。
- 身体所見:全身の紅斑を伴う蕁麻疹。チアノーゼ(+)  
呼吸困難(-)



# 院内での経過 1

- 14:35 ボスミン皮下注:  
0.1ml 施行 10分ほど  
して顔色もよくなり元気  
になった。
- 15:10にデカドロン服用、  
一時じんましんは軽快  
したが、また蕁麻疹が  
ひどくばり、顔色も悪く  
なったため
- 15:55 ボスミン皮下注:  
0.1ml 施行 その後ザ  
ジテン1回分服用した。



## 院内での経過 2

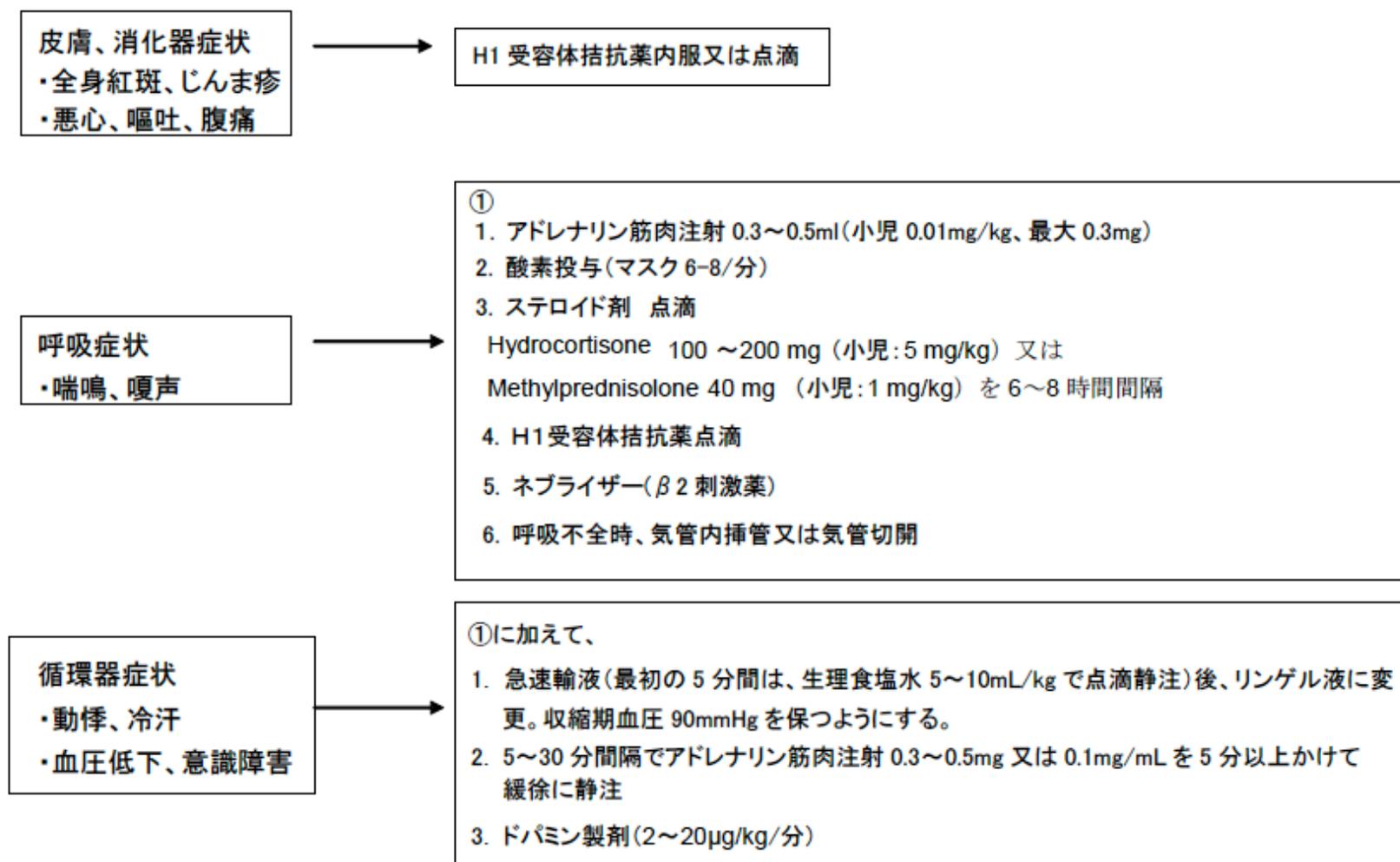
- 蕁麻疹は少しずつ軽快、母乳をのんでそのまま眠った。
- 17:20までよく眠り、顔がやや赤いものの蕁麻疹はほぼ消退、帰宅とした。



## 図 7. アナフィラキシーの治療手順

○ アナフィラキシーが疑われたら、直ちに ABCDE アプローチを行い以下の様な手順で治療する。

A: 気道、B: 呼吸、C: 循環、D: 意識、E: 脱衣



注意: β 遮断薬内服時、アドレナリンの代わりにグルカゴン 1~5 mg (20~30µg/kg 5分以上) 静注。以後、5~15µg/分で持続点滴する。

# 本症例の経過と治療の要点

- わずかな卵成分の摂取で発症した
- 摂取後、2時間ほどたってアナフィラキシー症状がでた
- 不機嫌、嘔吐、下痢、じんましんが認められた
- すがるような表情で治療者を見つめた
- 1回目のボスミン皮下注で一時軽快したが、1時間ほどして再悪化し、2回目の投与を必要とした
- 院内で約3時間観察し、再々悪化のないことを確かめて帰宅させた